

科学と社会委員会 市民と科学の対話分科会（第三回）  
議事録（案）

1. 日時 : 平成30年5月2日（水）13:00～15:00
2. 場所 : 日本学術会議5-B会議室
3. 出席者: 遠藤委員長、江守幹事、高橋委員、所委員、中村委員

（欠席: 平井副委員長）

参考人: 石橋課長補佐（文部科学省）

（事務局）: 高橋参事官補佐ほか

（1）「サイエンスカフェ」に関する共通理解

- 3月28日に渡辺副会長、遠藤委員長、江守幹事が日本科学未来館の毛利館長と意見交換を行った。サイエンスカフェの次のフェイズを目指してはどうか等のアドバイスを頂いた。
- 「次のフェイズ」への大幅な変更は来年度開始に向けて検討を続ける。検討内容について以下のような議論があった。
  - 内容について、複数の話題提供者による真剣勝負的な議論などの新しい方向性を検討する。
  - 場所について、飲食店での開催（参加者実費負担を含む）の可能性を検討する。
  - 幅広い年齢層、リピーター以外にも参加してもらう工夫を検討する。
  - ファシリテーション手法の調査を行う。（→「学術の動向」にまとめる？）

（2）今年度のサイエンスカフェ東京開催について

- 今年度は、従来と同様に、もしくは可能であれば新しいアイデアを実験的に試しながら開催する。
- 偶数月の第3金曜日を基本とし、8月から4回開催する（8/24、10/19、12/21、2/15）。
- 場所は、文科省の情報広場が空いていれば使わせて頂ける。
- 飲み物の提供について検討する。（事務局）
- 文科省が空いていない場合、日学1階の自動販売機のあるスペースが候補。

（3）サイエンスカフェ地方開催について

- 中村委員のコーディネートで大阪大学の近くで隔月でサイエンスカフェを行っており、回によっては日学のサイエンスカフェに位置付けることが可能。（中村委員）

（4）その他

- コミュニケーション活動が科学者の業績として評価されるべきという提言を出すこ

とについて検討した。以下のような議論があり、この議題は継続審議となった。

- 評価の問題は、日学内の他の委員会、分科会等で同様の議論があるかもしれないので調査する。(遠藤委員長)
- 誰に対する提言になるのかを考える必要がある。
- エビデンスベース、海外との比較等の調査が必要ではないか。
- 大学、研究機関の組織にとっての動機付けは何か考える必要がある。
- 次回分科会で、日本科学未来館のサイエンスコミュニケーター等を参考人としてお呼びし、ファシリテーション手法について話題提供してもらうよう依頼する。(江守幹事)
- 次回分科会の開催は、メールにて日程調整する。
- 今年度の東京開催のカフェについて、誰が何月を担当するか、メールにて調整する。(遠藤委員長、江守幹事、所委員、中村委員)

以上